

オンラインストレージのすすめ^上

ネットにファイル保存 ■ 受け渡しにも便利

職場など自宅外のパソコンで作業したファイルを家でも使いたい、あるいはメールに添付できない大容量ファイルを他人に渡したいと思うことはよくあります。従来はそのつどCD・RやUSBメモリーにコピーして持ち歩いてきましたが、正直面倒です。特に遠くの人に渡す場合、いちいちディスクを送ったりせずに済ませられる方が便利。そこで注目したいのが「オンラインストレージサービス」です。(ライター 西田宗千佳)

てくらの生活入門



ストレージとは、英語で「保管場所」のこと。パソコン用語としては、ハードディスクやUSBメモリーなどファイルの保存先のことを指します。これが自分の手元のパソコンでなく、ネットの向こう、すなわちオンライン(ファイルで結ばれた)上にあるのが「オンラインストレージ」ということとなります。

ネットの向こうにあるので、データの転送にはインターネットを使います。そのため、ファイルサイズが大きすぎると、転送に時間がかかるのが欠点ですが、実際にはそれを補ってあまりある利点があるのです。

一つ目の利点は、ネットにつながってさえいれば、どこから

Rにコピーして渡すにしても、遠隔地の人には郵便などで送る必要があり、時間はかかるし面倒でした。

しかしオンラインストレージなら、ファイルサイズの制限はゆるめなので、確実に受け渡すことができます。容量が大きいといっても、たいていは数十〜数百MBでしようから、ブロードバンド回線なら、速度的にもさほど問題はないでしょう。筆者も、以前は画像や動画、書籍の原稿などを出版社とやりとりする際、宅配便などを利用していましたが、今はほとんどオンラインストレージ。時間も費用も節約できています。



そして三つ目のメリットが「バックアップ」です。自宅以外の場所にファイルをコピーして保存しておけば、事故などでデータが消えてしまふ確率を小さくできます。もちろんオンラインストレージ上のデータが消えることもあるので、元データをパソコンから消してしまつてはいけません。両方にあることで、ファイル保存の安全性を高められます。

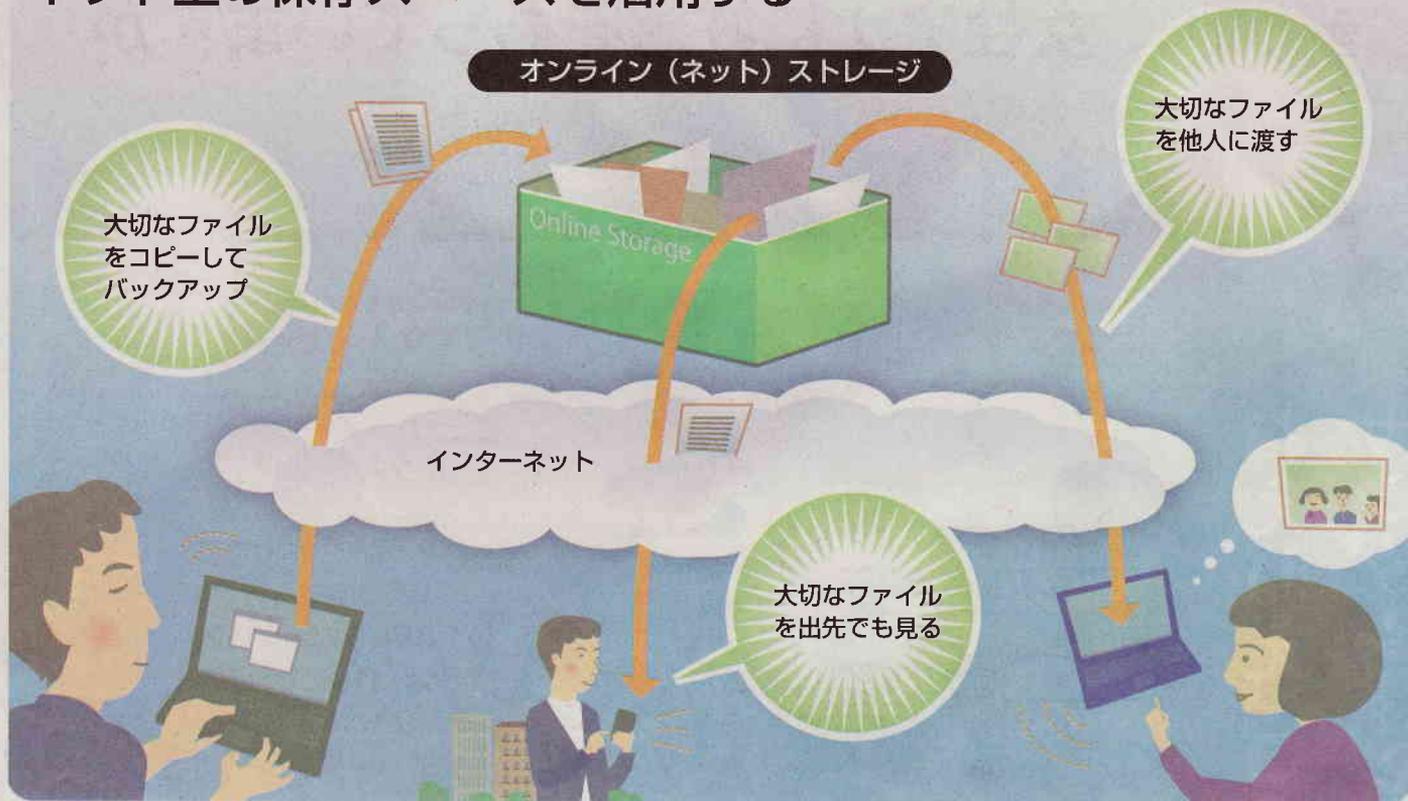


複数のパソコンを使っている、それぞれのパソコンで同じデータを利用したい人や、他人と画像などの大容量データをやり取りする機会が多い人は、試してみる価値があるでしょう。多くのサービスに「数ギバイトまでの無料体験プラン」が用意されているので、気軽に試せるのも魅力です。無料であっても、非常に使いやすいサービスを提供している例もあります。

なお仕事で使う場合などによって、オンラインストレージの利用が禁止されていたり、利用するためのソフトをインストールできなかったりすることがあるので、その点はよく注意しましょう。

具体的にどんなサービスがあり、どう使えばいいのかは、次回くわしく解説します。

ネット上の保存スペースを活用する



オンラインストレージ

USB メモリー

外付けハードディスク

三つの保存方法の特徴

	オンラインストレージ	USB メモリー	外付けハードディスク
容量	△ バックアップなら「無限」のものも	△ 数十 GB までが主流	◎ 圧倒的に大きい
転送速度	✕ 一度に数百 MB 程度までが実用的	◎ 実用上困ることはない	◎ 実用上困ることはない
セキュリティ	△ パスワードの厳密管理が必要	△ なくしやすい	○ ほとんど持ち歩かない
データの渡しやすい	◎ 相手がネットにつながるならどこにいても OK	○ 小さいので手渡し OK	✕ 持ち運びにくい
データの壊れにくさ	◎ 同時に消えることは皆無	○ 対衝撃性に優れる	△ 意外と故障しやすい
コスト	◎ 高くとも月額数百円、無料も	○ 数千円のものが主流	✕ 数万円のものが主流

オンラインストレージのすすめ 下

複数PCで自動同期 ■ 通常操作と同じ扱い

ファイルやフォルダーをインターネット上に保存できるオンラインストレージサービス。今回は、その使い方を具体的に解説します。同種のサービスはたくさんありますが、中でも有名な「Dropbox（ドロップボックス）」を採り上げましょう。英語版なので最初は取っつきにくいですが、一度導入すると手放せない便利さがあります。（ライター 西田宗千佳）

てくらの生活入門

 **ドロップボックスの**
特徴は、パソコン上にある専用フォルダーの中にファイルを保存すれば、それがインターネット上にも保存されることです。操作は普段と全く同じで、特別なことを意識する必要はありません。

利用するにはまず、専用の「クライアントソフト」（無料）をパソコンにインストールします（図）。すると、特に指定しない限り、マイドキュメント（ドキュメント）の中に「My Dropbox」というフォルダーが作られます。ここにファイルをコピーすると、自動的にインターネット上に転送されます。

専用ソフトをインストールし、共通のID（メールアドレス）

とパスワードで認証すれば、複数のパソコンで同じドロップボックスフォルダーを利用できます。これにより、自宅のパソコンと職場のパソコンで同じフォルダーを共有できるわけです。

 一方のパソコンからドロップボックスにファイルが転送されると、他のパソコンには自動的にそのファイルがダウンロードされます。つまり「My Dropbox」には、必ず最新の状態のファイルが自動転送されているわけです。複数のパソコンでデータを共有するのにも、ファイルのバックアップを取るのにも、便利な仕組みです。

ファイルをMy Dropboxに保存するようにしておく

と、常に最新のファイルが、パソコン内のハードディスクとオンライン上の「自分のドロップボックス」の両方に保存される、というわけです。両方が同時に壊れる確率はかなり低いので、安心して利用できます。

専用ソフトは、iPhoneなどのスマートフォン用のものも配布されています。それを使えば、iPhoneからも、ネット上に転送されたフォルダーの中身を確認できます。

残念ながらDropboxは英語サービスなので、英語が苦手な人は尻込みしてしまうかも知れません。ただ、最初の導入の時は英語を読む必要がありませんが、一度使い始めれば、この自動転送の仕組みのため、あまり英語を意識せず利用できます。無料登録の場合、容量は2GBまで。より大きな容量が必要な場合には、50GB（月額9・99ドル）または100GB（月額19・99ドル）のコースを契約する必要があります。

My Dropboxの中で「Public（パブリック）」と名付けられたフォルダーは特殊な意味を持っていません。他の部分は他人に公開され

ませんが、Public内に置かれたファイルには、他人もアクセスできます。従って、他人にファイルを受け渡したい時には、Public内にファイルを入れればいいのです。

Publicに保存したファイルを右クリック→「Dropbox」↓「Copy Public link」を選ぶと、そのファイルにアクセスするための「アドレス」を取得できます。メールなどに張り付けて、渡したい人に知らせましょう。ただし全く知らない人にアクセスされる可能性もゼロではないので、用が済んだらPublicからファイルを消去しておきましょう。

 **ドロップボックスも**
万能ではありません。テキストや表計算などのサイズが小さなファイルは問題ないのですが、動画や写真などの容量の大きなデータをネットに転送する際には速度が遅くなります。大きなファイルをよく使うなら、「クオンプ」（リコー）や「インターネットディスク」（ジャストシステム）など、別のサービスの利用も検討しましょう。

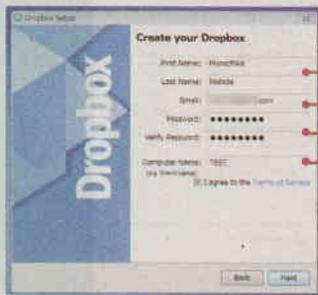
よう。

Dropbox を使ってみよう

★ 最初に

ソフトをダウンロードしてインストール

アドレス ▶ <http://www.dropbox.com>



最終工程でアカウントを作成

自分の名前 (英文字で)
メールアドレス
パスワード
パソコンの名前 (英文字で)

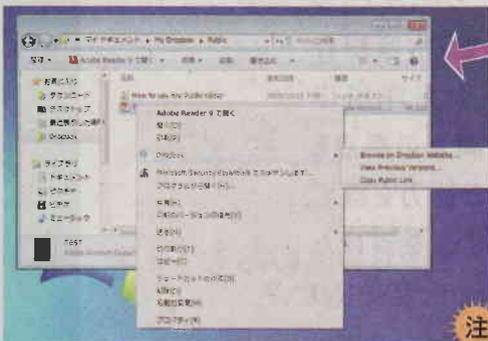
…を入力

MyDropbox フォルダを開いて使おう



中にファイルをコピーすると、自動的にネットの向こうへ転送
パソコン内とネット上の両方に同じファイルが存在

Public フォルダ



ファイルを右クリック ▶ 「Dropbox」▶ 「Copy Public Link」とすると、他人にファイルの場所を知らせるアドレスを「コピー」できる



緑は同期済み、
青は同期中の印

注

Public フォルダの中身は他人も自由にアクセス可能。秘密のデータは置かないように



iPhone や他のパソコンからも登録済みのメールアドレスとパスワードを入力すれば同じファイルを閲覧

主なオンラインストレージ・サービス

※バックアップ専用サービスは容量制限なし

名称	運営元	容量	月額利用料	日本語化
Dropbox	米 Dropbox	2GB~100GB	無料~19.99 ドル	×
SugarSync	米 Sugarsync	2GB~250GB	無料~24.99 ドル	○
SkyDrive	マイクロソフト	25GB	無料	○
quanp	リコー	1GB~100GB	無料~980 円	○
Internet Disk	ジャストシステム	※100MB~20GB	315 円~5250 円	○

グラフィック・なかのりか